

令和5年度 政策評価表

		作成日	令和5年8月22日
リーディングプロジェクト	元気でいきいき“健幸(けんこう)長寿のまち”の実現	ゼネラルマネージャー	健康推進部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	健康推進部長、経営企画部長、市民部長、福祉部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、建設部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	保健センター長、健康推進部次長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進担当参事、まちづくりセンター担当参事、文化芸術振興課長、高齢者支援課長、保健医療課長、国民健康保険課長、健康づくり支援課長、健康づくり支援課主幹、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、都市計画課長、交通政策室長、市街地整備担当参事、道路建設課長、道路維持課長、公園課長、河川担当参事、教育総務部次長、社会教育担当参事、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

健康で幸せを感じながらいつまでもいきいきと地域で暮らすためには、充実した医療体制はもとより、市民一人ひとりが自分の心と体を大切にする健康意識の向上が重要となるため、歩くこと等を中心とした生涯を通じた健康づくり、体力づくりを進めていく必要があります。

また、人や自然とのふれあいは、心の豊かさや活力を育むことにもつながります。誰もが外に出て人や自然に触れ活動したくなるように、所沢の豊かな自然を生かした魅力的な散策路の整備や、人々が楽しみを感じる集いの場を増やすなど、「歩いて」「楽しんで」健幸長寿を実感できるまちづくりを進めます。

【令和4年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

3-1-1 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）	
トコトコ健幸マイレージ事業	健康づくり支援課 国民健康保険課
3-5-1 スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）	
スポーツ教室開催事業	スポーツ振興課
健康体操推進事業	スポーツ振興課
所沢シティマラソン大会開催事業	スポーツ振興課

《「関連する取り組み」にあたる事業》

1-1-1 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）	
地域づくり支援事業	各まちづくりセンター

1-4-1 自立した生活を継続するための取り組みの推進 （介護予防や重度化防止に向けた取り組み）	
介護予防普及啓発事業	高齢者支援課
地域介護予防活動支援事業	高齢者支援課
老人福祉センター等運営事業	高齢者支援課

4-2-3 みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）	
水とみどりがつくるネットワーク計画推進事業	みどり自然課
砂川堀水辺保全・散策路整備事業	河川課
みどりのエコスポット整備事業	みどり自然課

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」活用事業(COOL JAPAN FOREST 構想事業)	商業観光課
観光拠点の整備・充実事業	商業観光課
パブリック空間創出・利活用推進事業	都市計画課

5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）	
インバウンド戦略推進事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
観光客回遊性創出事業	商業観光課

5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）	
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
地産地消推進事業	農業振興課
体験農場推進事業	農業振興課

6-1-2 所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）	
景観まちづくり推進事業	都市計画課

6-3-4 歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）	
自転車レーン整備事業	道路維持課

【評価及び今後の方針】

令和4年度の取り組みに対する評価

●主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）

「トコトコ健幸マイレージ事業」については、令和3年度に引き続き、『歩くこと』を中心とした健康づくりのコンセプトに基づき、本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施した。

「広報ところざわ」や「ところざわほっとメール」、SNSを活用した情報発信を行うとともに、従来からの地区活動や健診、庁内各課が作成するチラシや通知等を通じて周知に取り組んだ結果、令和4年度末の参加申込者数は13,798人となった（令和3年度末より3,046人増加）。

また、埼玉県が民間団体とコラボレーションして実施したウォーキングイベント「オクトーバー・ラン&ウォーク2022」との連携や、本市で令和4年11月に開催された「トコロんウォーク2022」を市独自ポイント対象事業とした事に加え、令和4年12月に「ウォーキング促進強化月間」を実施するなど、参加者拡充に加えて歩数増加にも取り組んだ。その結果、令和4年度中の平均歩数は7,201歩となり令和3年度実績（7,029歩）より172歩増加した。

さらに、栄養・歯科・健康増進全般に係る各種教室等については、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模の縮小等の感染症対策を行いながら開催し、健康増進につながるよう努めた。

また、広報ところざわ5月号では、特集「大丈夫？わたしの健康」と題して、所沢市民の健康課題である糖尿病や悪玉コレステロールに着目し、栄養面と運動面から生活習慣の見直しを提案した。

●スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、3年ぶりに市民プールの開設、とこしゃんまつり、所沢シティマラソン大会の事業を開催した。

また、親子スポーツフェア、こどもスポーツフェア、「トコロんウォーク2022」など市民が気軽にスポーツに参加できる事業を展開するとともに、広報ところざわ9月号の特集で「さあ 所沢でスポーツを始めよう」と題し、市内の運動施設やスポーツイベントを紹介したほか、市民フェスティバルにおいて、所沢市ゆかりのアスリート認定式を行い、ゆかりのアスリートによる報告会の開催や各選手の情報発信を積極的に行うなど、第2次所沢市スポーツ推進計画で掲げる4つの基本方針「する」「みる」「ささえる」「もりあげる」に則ったスポーツの推進を図った。

●地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）

令和4年度後半では、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた地域活動も少しずつ再開する動きがみられた。各まちづくりセンターでは、感染症対策を講じながら、とこしゃん体操教室や体力づくり講座、健康増進に資する講座などの事業にも取り組んできた。

また、「地域づくり協議会」等とともに地域活動を周知しながら健康増進につながる取り組みとして、ウォークラリーや地域マップ作りなどを行っている。

新型コロナワクチン接種について、インターネット等による予約が困難な方に対して、まちづくりセンターでの予約支援を実施したほか、一部の自治会・町内会については、自治会館等集会施設で自主的に予約支援を行った。

さらに、広報ところざわでは、「もっと地区自慢」を隔月連載し、各地域における自治会活動などを紹介することで、地域活動の活性化を図った。

●自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）

70歳以上の偶数年齢の高齢者を対象に、健幸のための「元気アップ大調査」を実施し、介護予防・重度化防止・認知症予防の知識や、運動・口腔にかかる機能向上、栄養改善等の日常生活における取り組みについて普及啓発を行った。

また、お達者倶楽部やトコロん元気百歳体操等といった地域の『通いの場』における介護予防の取り組みを支援するとともに、市内の民間施設を活用した健康体操等の「いきいき健康体操教室」を行い、地域包括支援センターにおいて介護予防教室を実施した。

老人福祉センター・憩の家においては、新型コロナウイルス感染症対策に努めながら、運動不足解消のための体操教室や、教養講座などを実施した。

さらに、5分間番組「トコロんおかえりQR」をJ:COMと製作し、外出に不安のある高齢者を家族に持つ方への支援として、令和4年1月に開始された、地域でみまもり支え合い事業（トコロんおかえりQR）と、その活用例等について紹介した。

●みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）

水やみどりとまちのにぎわいや魅力を結ぶ散策路を設定し「人を中心にしたまちづくり」の実現を目指す「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」での進捗管理を通じて、砂川堀水辺保全・散策路整備事業を推進し散策路を約350m設置するとともに樹木の剪定を行った。令和4年度の事業で、令和元年度から進めてきた寺山橋から三ヶ島橋までの区間が開通した。

また、まちなかのみどりを創出し、生物の生息・生育空間の創出と市民の憩いの場を提供するため、北中三丁目に「みどりのエコスポット」を整備した。

さらに、上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域内に残されている貴重な水田景観を保全するため、水田5筆について地権者と賃借契約を結び、地元団体との協働により耕作、管理を実施した。

また、広報ところざわ7月号の特集では、「楽しみ方無限大」と題し、みどりあふれる「カルチャーパーク」の魅力と楽しみ方を紹介した。

●にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）

令和4年度に開業1周年を迎えた「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」では、今年度も本市のにぎわい拠点として、YOT-TOKO1周年祭の他、様々なイベントを開催し、本市の魅力発信に取り組んだ。令和4年度の来館者数も当初の見込みを超え、約30万人（推計）となった。

また、パブリック空間創出・利活用推進事業においては、令和3年度に策定した「所沢駅周辺グランドデザイン」に示す街のビジョンの実現に向けた具体的な取り組みとして、街なかの回遊性と賑わいを創出することを目的に、令和4年11月19日及び11月20日の2日間、国登録有形文化財「秋田家住宅」及び銀座中央広場にて社会実験「TOKOROZAWA STREET PLACE」（トコロザワ ストリート プレイス）を実施するとともに、社会実験の実施報告、「今後の所沢のまちづくりについて」を題材とし、地元事業者や有識者によるトークセッションを行うフォーラムを開催した。併せて、広報ところざわ11月号でも「TOKOROZAWA STREET PLACE」を紹介し、歩くことによる新たな所沢の魅力探しを提案した。

●にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）

「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」の果たす役割の一つとして、市内外の観光拠点への回

遊性を生み出すことが挙げられる。令和4年11月及び令和5年3月には「埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）観光部会」と連携した観光PRを本施設で実施する等、市内外の各観光拠点への回遊性を生み出す取り組みを行っている。

また、「にぎわい拠点間の回遊性の向上」を図るため実施している「シェアサイクル実証実験」においても、サイクルポートの設置個所を開始当初の30か所から令和4年度末時点で76か所まで増やすことができ、1年間の利用回数は前年比約60%増の約42,000回となった。

●観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）

地産地消推進事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により参加店舗数や開催時間に一定程度制限を設けながらも、「とことこ市」の通年開催を実現したほか、安全・安心な地元農産物の調理方法を掲載した「地産地消レシピ」に初めて給食メニューを掲載する等、地元農産物の魅力を発信することで健康づくりの推進に努めた。

また、体験農場推進事業については、土との触れ合いにより、心身ともにリフレッシュ効果が得られることから、充実した農業ライフを過ごしていただくため、延べ8会場において利用者向けの講習会を開催した。

さらに、「クアオルト健康ウォーキング」を活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、「クアオルト健康ウォーキング」を実施した。普及啓発のため、広報ところざわや市ホームページ等による情報発信を行うとともに、実践指導者の養成及び研修を行い、能力向上を図りながら、観光と健康を融合した事業を展開した。

また、広報ところざわでは、「ところざわブランド特産品」を隔月連載し、所沢の銘菓などを紹介した。

●所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）

個人宅の草花や庭木のガーデニングを登録し、公開している庭を掲載した「とことこガーデンマップ」を作成して、良好な景観の形成につなげるとともに、外に出て街歩きを楽しむ契機としている。また登録したガーデナー同士や地域内での交流も生まれている。さらに、所沢らしい景観を市民の推薦で景観資源として登録し、このうち表彰された景観をガーデンマップやホームページ等で紹介するなど優れた景観を発掘・共有して外出のきっかけ作りとした。

さらに広報ところざわ10月号の特集では、「街の変化の秘密」と題し、暮らしやすい街づくりの手法である区画整理について解説した。

●歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）

自転車レーン整備にあたり、埼玉県警察と協議を実施したが、安全性の観点からの課題も多く、令和4年度は、自転車レーンの整備を見送ることとなった。

「人を中心にしたまちづくり」の取り組みとして、『人のためのみち、空間づくり』を実現するため、木陰で一息つけるような場所も含めて、市内に80基のベンチを設置した。

【総評】

新型コロナウイルス感染症における「まん延防止等重点措置」が、重症化リスクの低下等の理由により、令和4年3月21日をもって終了した。ウイルスによる感染のリスクが無くなったわけではなく、感染者数の一時的な増加はあったものの、令和4年度は徹底した感染症対策を講じつつ、前年度と比

較してより多くの事業が実施された。

「トコトコ健幸マイレージ事業」では、令和3年度に引き続き『歩くこと』による健康づくりをコンセプトに実施し、参加者募集のための周知に努めるとともに、コロナ禍による外出自粛等により減少していた平均歩数を増やすため、「トコロんウォーク2022」との連携や「ウォーキング促進強化月間」に取り組んだ結果、令和4年度末の参加申込者数は13,000人を超え、平均歩数も前年度より増加することとなった。

また、3年ぶりに開催された所沢シティマラソンをはじめ、各種スポーツイベントが開催され、市民が気軽にスポーツに参加する機会が設けられた。そのほか、各地域の活動も少しずつ再開し、各まちづくりセンターでのとこしゃん体操教室や健康増進に資する講座の実施、「地域づくり協議会」等との協働によるウォークラリーや地域マップ作り、お達者倶楽部など地域の『通いの場』における介護予防の取り組みに対する支援や、地域包括支援センターにおける介護予防教室、老人福祉センター・憩の家での教養講座など、感染症対策に努めながら、人々が集まる形での事業が行われた。

「人と自然のふれあい」に関しては、市内では貴重な水田景観を保全するための上山口地区における水田の借上げ及び耕作・管理の実施や、砂川堀の散策路の整備、体験農場における利用者向けの講習会の開催、さらには体験学習会「狭山丘陵・ちょっと地層を見て歩き」の開催など、市民が「ふるさと所沢」の歴史文化や自然に触れ合う機会の創出に関する取り組みが行われた。

さらに、「人々が楽しみを感じる集いの場」に関しても、令和3年度に開設した「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」では、1周年祭に併せて様々なイベントが開催され、また「秋田家住宅」及び銀座中央広場では、街なかの回遊性と賑わいを創出することを目的とした社会実験である「TOKOROZAWA STREET PLACE」が行われるなど、本市の魅力発信及びにぎわい拠点の創出に関する取り組みが行われた。

また、「所沢農産物」やその加工品の直売イベントである「とことこ市」の通年開催や、広報ところざわでは、隔月で所沢の銘菓などの「ところざわブランド特産品」を紹介するなど、市の魅力の発信に取り組んだ。

加えて、歩きやすい環境整備の一環として、木陰で一息つけるような場所などに市内に80基のベンチを設置するなどの取り組みも行われた。

以上のように、市民が楽しみながら歩けるまちづくりがソフト面とハード面の双方において着実に進められたことにより、健康寿命(※)が男性83.49歳、女性86.09歳(令和4年度公表)となり、男女ともに県内平均(男性83.01歳、女性85.86歳)を上回る結果となった。

※健康寿命：埼玉県が定義する、65歳に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間(具体的には、介護保険制度の「要介護2以上」になるまでの期間)として算出したものに、65歳を加えたもの。

今後の方針

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日以降に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における位置づけが変更になった。それにより、旅行や会食、多数の人々が集まる大規模イベントなども復活し始め、感染拡大前の状況に戻りつつある。一方で、新型コロナウイルスが無くなったわけではなく、感染者数の状況は引き続き注視が必要である。コロナ禍による長期間の自粛生活が及ぼした市民の心身への悪影響だけでなく、新型コロナウイルス以外の様々な感染症や疾病なども増えており、市民の健康増進に向けた取り組みがより重要になっている。

本市では昨年度に引き続き、市民各々が自分のペースで楽しみながら自由に取り組める「心」と「体」の健康づくりに取り組んでおり、併せて市民が自ら歩きたくなるような、魅力溢れるまちにするための取り組みも各課で実施されている。

現在、「人を中心にしたまちづくり」の考え方のもと、市民が歩いて過ごせるまちづくりが進められており、当プロジェクトにおいても「歩くことによる健康づくり」という観点から、多くの市民が、所沢市の豊かな自然、歴史、文化、芸術、街並みに触れ、「ふるさと所沢」を感じながら、楽しんで歩けるよう、ソフト・ハードの両部門が連携して様々な施策に取り組み、「元気でいきいき“健幸長寿のまち”」の実現を目指していく。

【SDGsへの貢献】

1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさも守ろう
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公正をすべての人に
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう
9	産業と技術革新の基盤を作ろう		